



福岡市地下鉄

経営戦略

【概要版】

2019年度



2028年度



FUKUOKA
CITY
SUBWAY

第1章 策定の目的

目的・位置付け

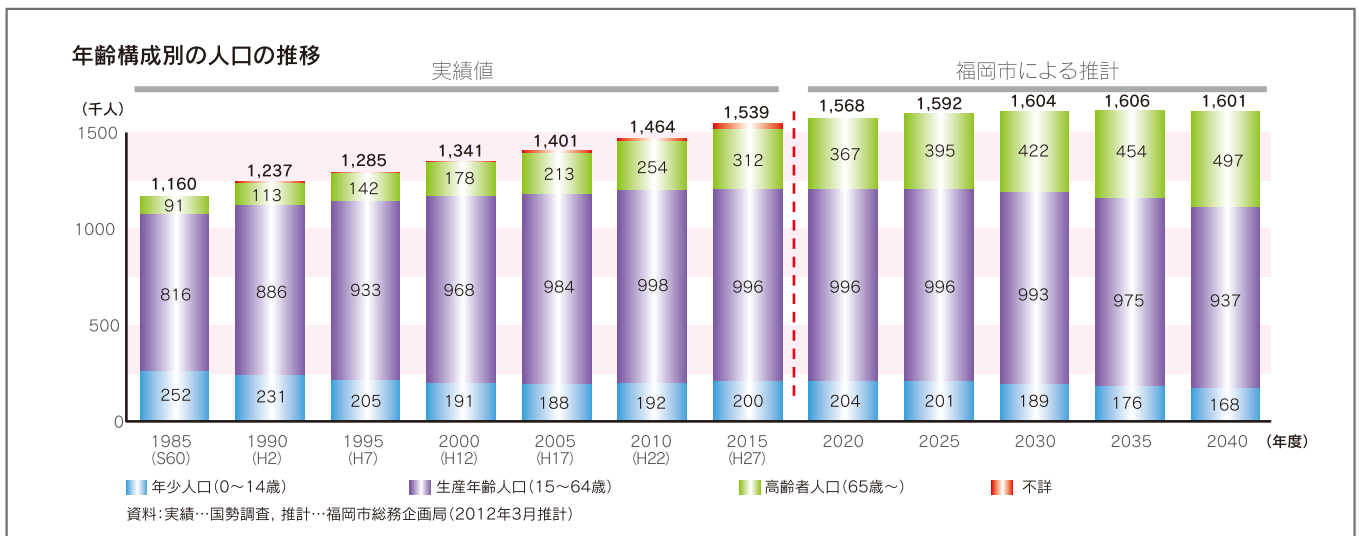
- 高齢化の進行, 外国人利用客の増加などニーズの多様化
- 施設・車両の更新など設備投資費の増加



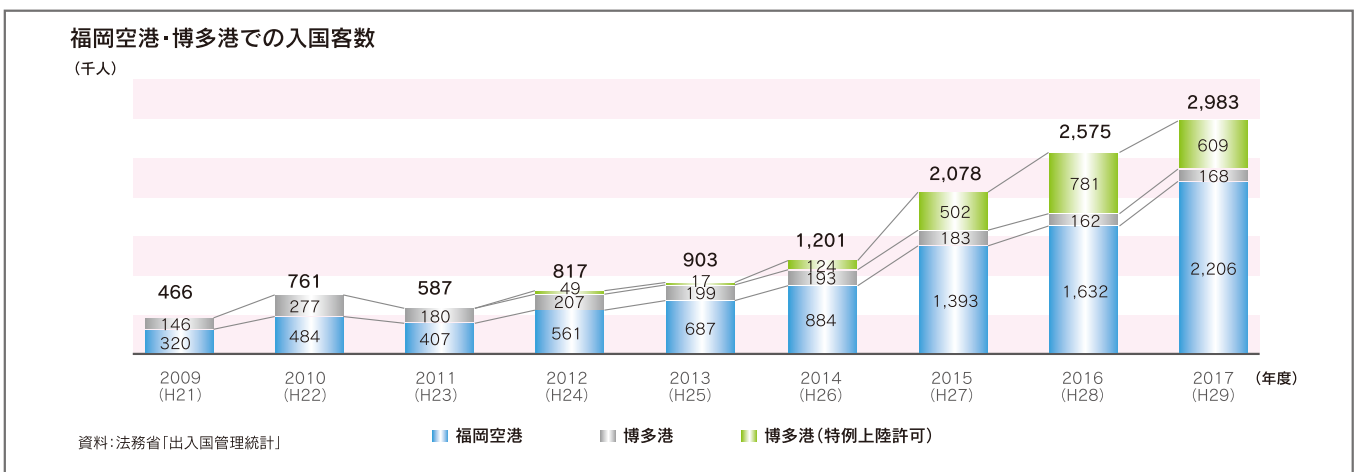
計画期間 2019年度から2028年度(10年間)

第2章 現状と課題

- 福岡市の将来人口推計によると人口は, 当面の間増加
- 高齢者人口のみ増加し, 年少人口, 生産年齢人口は減少
- 生産年齢人口の減少や高齢者人口増加への備えや対策が必要



- 福岡市への観光客数は年々増加。今後も増加
- 外国人観光客は, 世界水泳選手権などにより, さらに増加



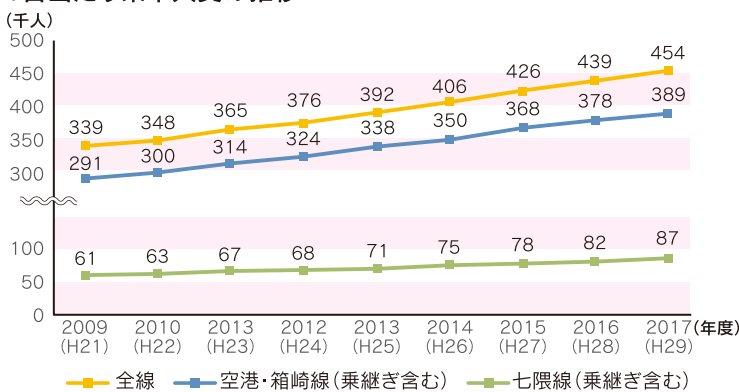
第3章 経営の基本方針

経営理念

私たちは、日常を支える公共交通機関として、安全・安心を何よりも優先するとともに、質の高いサービスの提供にチャレンジし続けることで、お客様と福岡のまちの笑顔と元気を運びます。

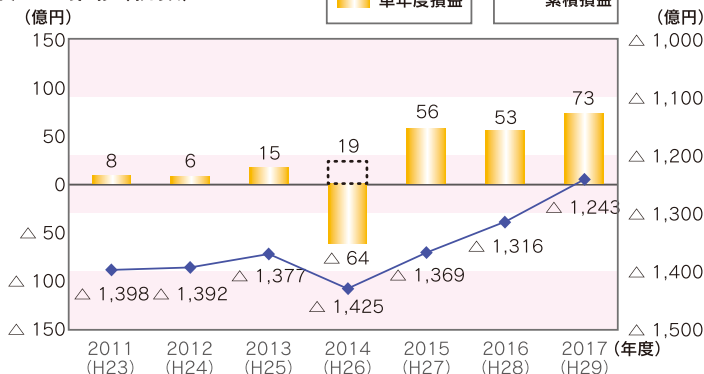
- 乗車人員は、近年は、人口増や入込観光客数の増加などにより、乗車人員数は増加
- 今後は、生産年齢人口は減少。高齢化の進展や外国人観光客の増加など、外部環境の変化への対応が重要

1日当たり乗車人員の推移



- 単年度損益は、2011年度以降黒字基調で推移、2017年度には73億円
- 累積欠損金比率は453%と他の公営地下鉄と同程度
- 累積欠損金の額は1,243億円と多額

損益の推移(税抜)



※2014年度の単年度損益及び累積損益は、会計制度見直しに伴う調整後の額
 ※2014年度の破線の棒グラフは、会計制度見直しに伴う調整前の単年度損益額

【項目ごとの主な課題】

安全・安心の確保	安全マネジメントの推進に向けた組織としての安全管理
	運輸職員の高齢化を踏まえた技術継承・育成
	日常点検や予防保全計画に基づく計画的な更新・修繕
	新型感染症やテロなど新たなリスクへの対応
	業務委託化推進に伴う委託先の管理・監督機能強化
	安全・安心に向けた取組みの積極的な情報提供
快適で質の高いサービスの提供	交通ネットワークの充実化を踏まえた乗継利便性向上など、スムーズな輸送の実現
	少子高齢化への対応
	温度設定など快適便利なサービス提供や環境づくり
	高齢者や外国人などの増加に伴うお客様ニーズの多様化への対応
	お客様のご意見の積極的な活用
まちづくりへの貢献	天神ビッグバンなど、地下鉄沿線のまちの変化への対応
	地域の特性と調和した、より魅力的で親しまれる地下鉄づくり
	交通結節機能の更なる充実・強化
	地球温暖化対策への貢献
経営基盤の強化	外部環境の変化に対応した効果的で戦略的な営業施策
	広告料収入などの安定的な確保
	施設・車両などの経年劣化に対応するための計画的な修繕・更新
	安全性などを確保しつつ、費用を削減するための創意・工夫
	職員の大量退職などを踏まえ、交通局特有の専門技術や知識を持ち、多様なお客様ニーズに対応できる人材の育成

	項目	主な取組み
安全・安心の確保	(1)安全マネジメントの推進	運輸安全マネジメントのスパイラルアップ、ヒヤリ・ハット情報の積極活用
	(2)教育訓練の充実などによる安全スキルの向上	事故復旧シミュレーション訓練の充実、技術継承のための研修などの充実
	(3)施設、車両などの安全性の確保	定期検査や保守点検による安全管理、施設・車両などの計画的な更新、車両基地の機能維持
	(4)災害対策などの強化	合同訓練などの充実による関係機関との連携強化、感染症対策などの新たなリスクへの対応
	(5)管理・監督機能の強化	工事などに関する管理・監督機能の強化、委託駅における管理・監督機能の強化
	(6)安全・安心の取組みに関する情報発信	安全マネジメントに関する取組みや、車両・施設の点検作業などについて、ホームページなどで発信
10年間の主な取組み	快適で質の高いサービスの提供	(1)スムーズな輸送サービスの提供 使いやすいダイヤの提供、お客様ニーズなどに対応した企画券の提供、接客技術の向上
	(2)みんなが使いやすい環境づくり	車両・駅のバリアフリーの充実、車両とホームの段差の改善
	(3)快適・便利な環境づくり	乗車マナの一向上、駅の利便施設の充実、車内混雑への対応、地下鉄の新たな魅力づくりの推進
	(4)超高齢社会に対応したサービスの提供	高齢者を対象とした企画券の充実、駅構内のベンチの増設
	(5)来街者にも使いやすい環境整備とサービスの提供	情報案内の充実、大型ロッカーなどの充実、多言語案内サービスの強化、外国人観光客の利用促進
	(6)お客様のご意見を活かしたサービスの向上	「お客様の声」の積極的活用、地下鉄モニター制度の充実
まちづくりへの貢献	(1)沿線まちづくりに対応した駅施設の改良など	天神ビッグバンにあわせた天神駅のリニューアル
	(2)沿線の地域、イベント、施設などとの連携	駅の魅力づくり、沿線のイベントなどとのタイアップ、大規模MICEとのコラボ
	(3)総合交通体系の構築	総合交通体系づくりの推進、乗継利便性の向上、自動車利用からの転換の推進
	(4)環境対策に関する取組み	環境にやさしい乗り物としてのPR、省エネの取組み
経営基盤の強化	(1)戦略的な営業施策の推進	各種データを積極的に活用し、データ分析に基づく戦略的な営業施策を推進
	(2)関連事業の推進と遊休資産の有効活用	広告料収入・構内営業収入の確保、遊休資産の有効活用
	(3)アセットマネジメントの推進	アセットマネジメント計画の作成と着実な推進
	(4)経営の効率化	民間ノウハウを活用した経営の効率化
	(5)新技術の積極的な活用	ICTの活用による業務の効率化や省エネルギー技術の導入
	(6)人材確保と育成	計画的な人材育成の推進、資格保有者の確保、運輸関係職員の人材確保、職場環境づくりの推進
七隈線延伸事業の推進	(1)安全を最優先とした工事の推進	工事の安全・着実な推進、工事の進捗や安全対策に関する情報の発信
	(2)みんなが使いやすく、魅力のある新駅の整備	使いやすい駅レイアウトの検討、魅力ある駅デザイン、地域と連携した魅力賑わいづくり
	(3)みんなが使いやすく、環境にも配慮した車両の導入	車両のバリアフリー機能の強化、省エネルギー化
	(4)使いやすい輸送サービスの提供	使いやすいダイヤの提供、わかりやすい料金制度の構築
	(5)わかりやすい情報の発信	工事の内容や安全対策、交通規制などに関する丁寧な情報発信

成果指標

現状値

中間年次
(2023年度)

最終年次
(2028年度)

①地下鉄が安全・安心と感じるお客様の割合	89.9%	現状以上	現状以上
②ヒューマンエラーの件数	63件	56件	50件
③技術の継承がうまくいっていると思う職員の割合	32%	50%	60%
④施設・車両に起因する運行への影響件数	11件	9件	8件
⑤施工不良・作業不良に起因する障害の件数	14件	12件	11件

①朝ラッシュ時の定常的な遅延時分(遅延率)	空港・箱崎線 50% 七隈線 14%	空港・箱崎線 40% 七隈線 10%	空港・箱崎線 30% 七隈線 5%
②「駅員の接客」に関する満足度	94.8%	現状以上	現状以上
③エレベーター、エスカレーターを増設した駅数	-	5駅	10駅
④「乗車マナー」に関する満足度	67.7%	70%	75%
⑤65歳以上の利用者数	23,716人	40,000人	60,000人
⑥「案内サイン」に関する満足度	85%	87.5%	90%

①地下鉄駅に親しみや愛着などの魅力を感じるお客様の割合	85.1%	87.5%	90%
②他の交通機関との乗継ぎがしやすいと思うお客様の割合	75.3%	77.5%	80%
③お客様1人を1km運ぶために使用する電力量	102 Wh /人 km	96 Wh /人 km	91.3 Wh /人 km

①累積欠損金	1,243億円	759億円	297億円
②企業債残高	2,530億円	1,943億円	1,065億円
③現在の仕事にやりがいを感じている職員の割合	58%	65%	70%

〔 成果指標は、計画期間の中間年次となる2023年度と最終年次となる2028年度に目指す水準を示すもので、経営戦略の進捗管理に活用します。 〕



列車検査



浸水防止合同訓練



駅接客選手権



駅コンシェルジュ



駅装飾



デジタルサイネージ広告



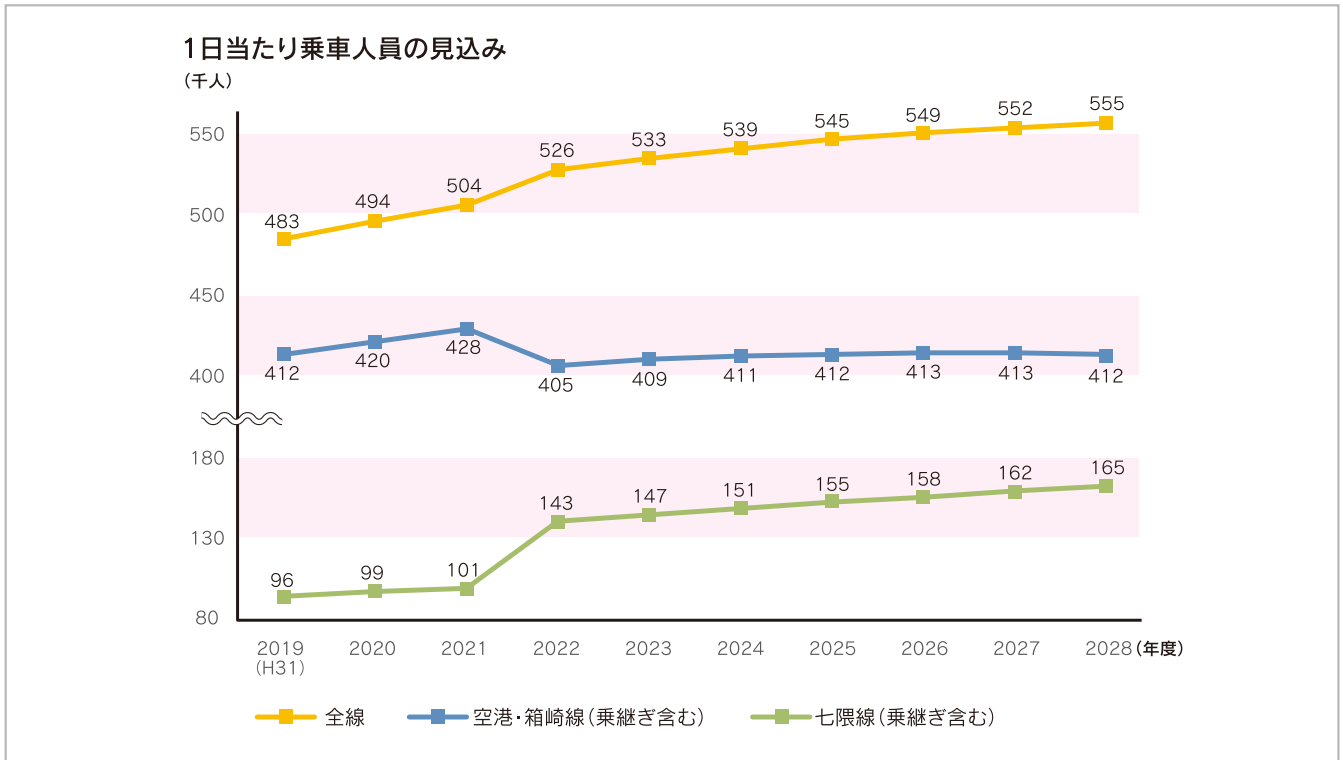
安全パトロール

第5章 財政計画

第1節 10年間の財政計画

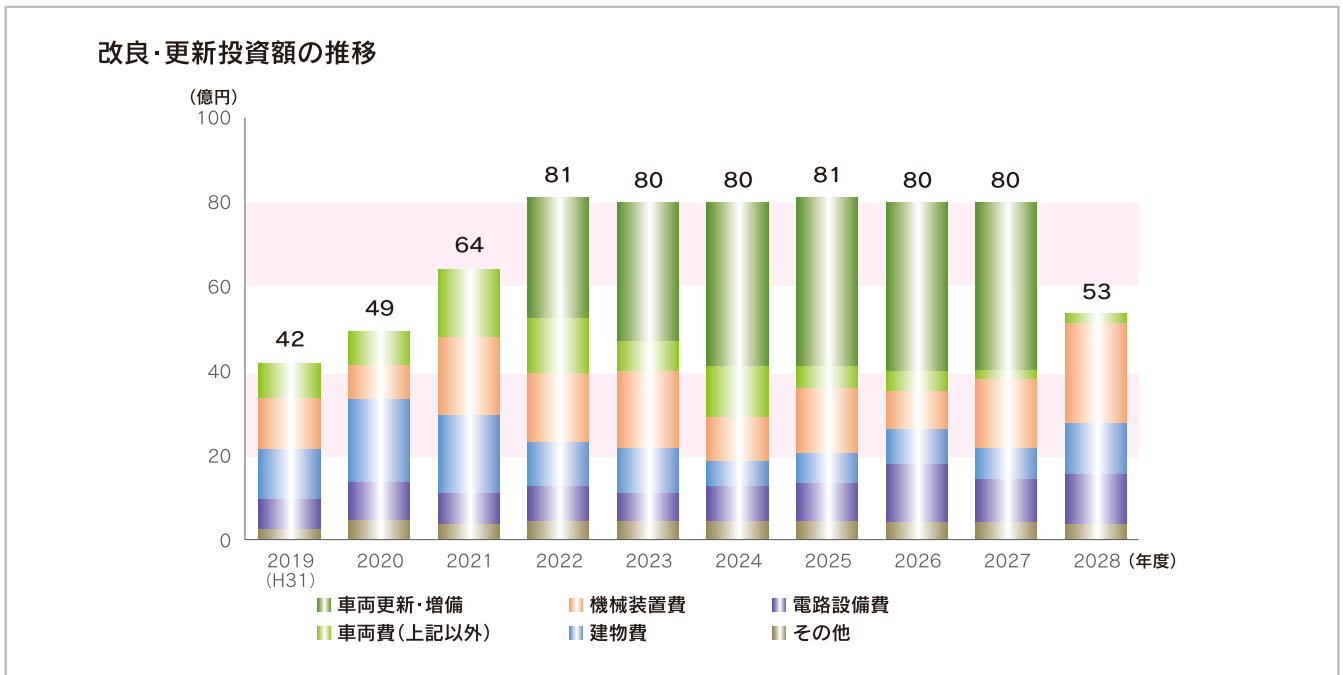
(1) 乗車人員の見込み

- 第4章に掲げた取組みを推進し、計画終了年度の2028年度には、1日当たり約55万5千人の乗車人員を見込む
- 七隈線延伸開業に伴い、1日当たり約2万3千人の新規利用者の増加を見込む



(2) 投資計画

- 新規投資(七隈線延伸事業)は、計画期間内に約330億円を見込む
- 改良・更新投資(営業線改良事業)は、施設・設備の更新時期を迎えることから、計画期間内に総額690億円を見込む



※上記投資額・時期については、今後の経営状況や社会経済状況などを踏まえ適宜見直しを行っていきます。

(3) 収支計画

- 単年度損益は、計画期間中63～96億円の黒字を確保できる見込み
- 累積資金不足は、2022年度に解消する見込み
- 企業債残高も順調に縮減が進み、2028年度末には1,065億円の残高となる見込み

全線収支

(単位：億円、収益的収支は税抜、資本的収支は税込)

区分		年度	計 画 期 間										
			2019 (H31)	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	
収益的 収支	収益的 収入	乗車料	296	302	308	313	327	330	333	336	339	339	
		補助金	22	17	18	13	12	11	9	8	7	6	
		その他収入	58	56	53	55	58	58	57	56	56	56	
		計	376	375	379	381	397	399	399	400	402	401	
	収益的 支出	経費	人件費	50	49	47	49	50	48	48	49	49	48
			修繕費	51	49	51	48	48	45	46	48	47	55
			その他経費	53	52	53	53	55	56	56	55	56	56
			計	154	150	151	150	153	149	150	152	152	159
			減価償却費	126	119	112	114	131	134	136	140	144	146
			支払利息	33	29	26	24	22	20	18	15	13	11
	計	313	298	289	288	306	303	304	307	309	316		
	単年度損益	63	77	90	93	91	96	95	93	93	85		
	累積損益	△ 1,110	△ 1,033	△ 943	△ 850	△ 759	△ 663	△ 568	△ 475	△ 382	△ 297		
資本的 収支	資本的収入	310	267	288	286	165	148	96	71	72	43		
	資本的支出	450	420	432	409	319	348	299	277	281	245		
	差引	△ 140	△ 153	△ 144	△ 123	△ 154	△ 200	△ 203	△ 206	△ 209	△ 202		
	累積資金過不足	△ 56	△ 44	△ 9	51	90	90	90	90	90	90		
	企業債残高	2,339	2,215	2,136	2,067	1,943	1,773	1,602	1,429	1,253	1,065		
	乗車人員 (1日当たり)	483,000人	494,194人	504,158人	(525,549人) 512,633人	532,958人	539,451人	544,666人	548,944人	552,221人	554,527人		

※2022年度の()書きは、七隈線延伸部開業後の1日当たり乗車人員である。

第2節 超長期的な収支の見通し

- 乗車人員は、2030年度にピークを迎え、全線で約55万7千人を見込む
- 単年度黒字は、毎年度、2019年度(平成31年度)当初予算を上回る73億円～140億円を見込む
- 全線の累積欠損金は、2031年度に解消する見込み

全線収支

(単位：億円、収益的収支は税抜、資本的収支は税込)

区分		年度	超 長 期 的 な 収 支 の 見 通 し										
			2019 (H31)	2024	2028	2029	2031	2039	2049	2059	2061	2068	
収益的 収支	収益的 収入	乗車料	296	330	339	357	359	368	349	322	313	286	
		補助金	22	11	6	5	3	0	0	0	0	0	
		その他収入	58	58	56	57	57	52	45	40	39	25	
		計	376	399	401	419	419	420	394	362	352	311	
	収益的 支出	経費	人件費	50	48	48	50	51	50	52	52	52	53
			修繕費	51	45	55	51	51	53	55	57	57	59
			その他経費	53	56	56	56	57	58	60	62	62	63
			計	154	149	159	157	159	161	167	171	171	175
			減価償却費	126	134	146	144	142	117	93	87	85	63
			支払利息	33	20	11	9	7	2	0	-	-	-
	計	313	303	316	310	308	280	260	258	256	238		
	単年度損益	63	96	85	109	111	140	134	104	96	73		
	累積損益	△ 1,110	△ 663	△ 297	△ 188	35	969	2,298	3,400	3,595	4,174		
資本的 収支	資本的収入	310	148	43	33	21	13	12	12	12	13		
	資本的支出	450	348	245	255	169	97	73	58	58	66		
	差引	△ 140	△ 200	△ 202	△ 222	△ 148	△ 84	△ 61	△ 46	△ 46	△ 53		
	累積資金過不足	△ 56	90	90	92	232	1,269	2,770	4,125	4,376	5,087		
	企業債残高	2,339	1,773	1,065	866	622	244	31	-	-	-		
	乗車人員 (1日当たり)	483,000人	539,451人	554,527人	556,155人	557,003人	543,280人	492,530人	431,651人	420,477人	383,774人		

第6章 経営戦略の進捗管理

- 「第4章 計画期間の主な取組み」で示した施策の取組状況や成果指標の達成状況などについては、毎年度、進捗を確認したうえで、翌年度に向けた検討を実施
- 計画の中間年次となる2023年度には、経営戦略の適切な見直し(ローリング)を実施



福岡市地下鉄経営戦略【概要版】

福岡市交通局総務部経営企画課

〒810-0041 福岡市中央区大名 2 丁目 5-31

TEL:092-732-4108 FAX:092-721-0754

E-mail kikaku.TB@city.fukuoka.lg.jp

<https://subway.city.fukuoka.lg.jp/>